

シリーズオンラインミニ講座

第2回 新幹線のバリアフリー対策



DPI日本会議 事務局長 佐藤 聡

a Voice Of Our Own

今日のお話

1. 新幹線の問題点
2. 諸外国の高速鉄道
3. 検討の経過
4. 6席レイアウトの理由
5. 最終取りまとめ
6. 最後に

Ⅰ. 新幹線の問題点

新幹線 3の問題点

1. 車椅子席が少ない
 - 1～2席程度（東海道新幹線総席数1323席）
 - 長い車いすは乗れない（120cm×70cm程度まで）
2. Webで予約・購入できない
3. 予約から購入まで数時間かかる
 - 窓口で数時間待たされる

2. 諸外国の高速鉄道

諸外国の高速鉄道 車椅子席は？

- フランス TGV (EURO DUPLEX) 4 席/1018席
- ドイツ ICE 4 席/830席
- イギリス ユーロスターe320 4 席/900席
- 韓国 KTX-山川 2 席+移乗用 3 席/363席
- 台湾 700T (日本の700系) 2 席+移乗用 2 席/989席
- 東海道新幹線 2 席/1323席

3. 検討の経過

第1回新幹線のバリアフリー対策検討会

JR5社の社長勢揃い！ 2019年12月23日



検討会の経過①

1. きっかけ

- 木村英子議員「新幹線の車椅子席は当日予約できない」
- 赤羽大臣「けしからん！」

2. 新幹線のバリアフリー対策検討会（12/23）

- 赤羽大臣、JR5社の社長、障害者団体
- 「世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道の実現を目指す」
- 車いす利用に絞った改善

検討会の経過②

3. 検討状況

(1) 検討会(親会) **2回**

(2) ソフトとハードのWG(実質的議論) **4回**

(3) 事前協議 **多数**

(4) 実証実験 **2回**(7/12、8/3)

手動車いす、簡易電動車いす、電動車いす(国産4輪)、
電動車いす(海外製6輪)、ハンドル形電動車いす、
呼吸器ユーザー車いす、ストレッチャー型車いす

実証実験 赤羽大臣も同行

2020.8.3



11号車に6席



6台乗っても通路幅60cm以上確保



ワゴン車（36cm）も通れます



ストレッチャー型 (1m90cm) も乗れます



赤羽大臣「バリアフリーは国の品格」 「障害を持った人の尊厳を守る」



N700S 自動ドアセンサー抜群！



- 車椅子席で動くと
ドアが開く
- N700Sから改善
車椅子スペースで動いても
ドア開かない
- 赤丸範囲だけ感知

4. 6席レイアウトの理由

実証実験 6席レイアウト

東海道新幹線N700S



6席レイアウトの理由①

1. なぜ6席なのか？

(1) 世界の基準

- IPCアクセシビリティ・ガイド ➡ 2席 (1編成)
- EU基準 全長300mを超えるもの ➡ 4席

6席レイアウトの理由②

(2) 提案

- 諸外国は4席が多いが、総席数は300～1000席
東海道新幹線は1323席と多い
- スタジアムの車椅子用席数は総席数の0.5%以上（IPCアクセシビリティ・ガイド等）
 - 東海道新幹線 $1323\text{席} \times 0.5\%$ ➡ **6.7席**
6席 + 1席（多目的室） = **7席**は必要

6席レイアウトの理由③

2. なぜ11号車に集めるのか？

- 障害者権利条約「他の者との平等」
- 自由席、指定席、グリーン車と選べるべき
- 車椅子用席、乗降口ドア幅確保、多機能トイレも必要

6席レイアウトの理由④

- N700Sはすでに導入。設計変更困難
- 今回は、乗降ドアが広く多機能トイレがある11号車に車椅子用席を集める
- 次世代車両から、分散設置を検討

6席レイアウトの理由⑤

3. なぜ、A席B席を残すのか？

- ・ 現在の利用している車椅子ユーザーの半数が座席に移乗している
- ・ 同伴者と隣り合って座りたい

4. なぜ、右側に席を設けないのか？

- ・ 車椅子のまま乗車する人も、窓際で車窓の景色を楽しめるように

6席レイアウトの理由⑥

5. 多目的室はこれまで通り使えるのか？

- 個室が必要という障害者もあり、これまで通り使える

6. ストレッチャー型も乗車可能へ

- 縦に車椅子用席を3つ並べるレイアウト
- 長さに余裕ができ、ストレッチャー型もOK
- 1スペースの広さは、右側は1300mm×750mm
左側は1200mm×750mm

5. 最終取りまとめ

第2回新幹線のバリアフリー対策検討会 最終取りまとめ 2020.8.28



最終取りまとめ①

1. 速やかに実施する対策

(1) 車椅子用フリースペースの導入

(多目的室含む、グリーン車除く)

- 1000席を超える場合 ➡ 総席数の0.5%以上
- 500～1000席 ➡ 5席以上
- 500席未満 ➡ 4席以上

※ 2人以上車いすのまま窓際

※ ワゴン車等の通行に支障のない通路幅確保

※ ストレッチャー式等2人以上利用可能

※ 移乗用席2席以上、介助者・同伴者席2席以上

最終取りまとめ②

(2) 予約・販売方法の改善

- 窓口の待ち時間短縮
- Web申込みの改善

最終取りまとめ③

2. 中長期的に取り組む事項

- 普通席、グリーン車への車椅子席拡充
 - 授乳室整備、トイレの仕様の改善
- ➡JR東は多目的室を授乳利用もしているため、
車いす予約ができない

最終取りまとめ④

3. 定期的な協議

- 引き続き**定期的な意見交換**の場を設け
障害者団体、鉄道事業者双方の意思疎通を図る
- 障害者団体の意向等について、**新型車両の設計時にできる限り反映させる**

【資料】 国交省HP

https://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo_tk7_000018.html

新幹線の新たなバリアフリー対策について

(「新幹線のバリアフリー対策検討会」におけるとりまとめ 令和2年8月28日)

東京オリンピック・パラリンピック競技大会を迎えるに当たって

- 東京オリンピック・パラリンピックを契機として、**障害の有無にかかわらず、誰もが快適に移動や旅を楽しめる環境整備に向けた気運の高まり**
- 成熟社会である我が国にとって、今大会の**レガシー**は「**真の共生社会**」の実現であり、それに向けて力強く前進する「**歴史的転換**」が求められている

「真の共生社会」に相応しい、あるべき新幹線の姿

- 現在の一般客室内の車椅子スペースは、
 - ① **数が限られており**(1編成につき1～2席)、グループで乗車することができない
 - ② 車椅子に乗ったままでは**通路にはみ出してしまう**
 - ③ 予約・購入に当たっては、介助者(駅係員)確保等により**時間を要する**場合があるほか、**ウェブ上で予約・購入手続きが完結しない**などの課題

東京大会のレガシーとなる「真の共生社会」の実現に向け、**新幹線のバリアフリー化はその象徴となるべきもの**であり、誰もが当たり前、快適に移動や旅を楽しむことができる、**世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道の早期実現**を目指す。

新幹線の新たなバリアフリー対策と今後の取組

速やかに実施する対策

(1)「車椅子用フリースペース」の導入

- 座席数に応じて1編成に3～6席(多目的室を除く)の車椅子が利用可能
- 移乗の有無や介助が必要な方、ストレッチャー式車椅子使用者など、様々な障害の状態に対応可能なレイアウト
- ウェブ上で予約・購入が完結するシステムの導入

(2) 現在の車椅子対応座席(※)等の予約・販売方法の改善

- 窓口における発券手続きの見直しによる待ち時間の短縮等
 - ウェブ申し込みの改善(申込期限の短縮等)
- ※車椅子スペースに隣接し、車椅子使用者が当該スペースを利用する際に予約する座席

新たな新幹線車両の導入時など中長期的に取り組む事項

- 今回整備する車椅子用フリースペースの利用状況等を踏まえつつ、座席種別ごと(グリーン車や普通車自由席等)への車椅子用フリースペース拡充を検討
- 授乳室の整備など車椅子使用者にとって利便性の高い多目的室の利用環境や介助者と共に利用できる車椅子対応トイレなど車内設備の仕様等について検討

早期実現に向けた取り組み

- 世界各地から多くの方々が訪れる東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、車椅子用フリースペースの導入を始めとする世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道の実現に向けて関係者が一丸となって取り組む



新幹線における車椅子用フリースペースについて

1. 車椅子用フリースペースの基本的な考え方

隣の座席への移乗が困難な方、保護者の付き添いや介助が必要な方など様々な障害の状態に対応し、障害のある方が一般の方と同様にグループで快適に乗車できるよう、車椅子用フリースペースを一般客室に設ける。

2. 車椅子スペース数の考え方

1編成あたりの提供座席数に応じて以下のように設定(グリーン車を除く)

1編成あたりの座席数	車両形式	座席数
1000を超える場合	総席数の0.5%※)以上	多目的室を含む
500～1000席	5席以上	
500席未満	4席以上	

※)国際パラリンピック委員会「アクセシビリティガイド(2013年6月)」による競技会場における車椅子座席の割合(一般の大会)

3. 車椅子用フリースペースの具体的な要件

- ① 少なくとも2人以上の方が車椅子に乗ったまま窓際で車窓を楽しめること
- ② 車椅子用フリースペースの通路は、乗客やワゴン等の通行に支障のない通路幅を確保すること
- ③ ストレッチャー式車椅子を含む大型の車椅子の方が2人以上で利用可能なこと
- ④ 車椅子使用者の移乗用席を2席以上※1)、それに隣接して※2)介助者もしくは同伴者の席を2席以上※1)設けること

※1)座席数500席未満は1席以上

※2)車両の構造上の理由等により「隣接」とすることが困難な場合は「近接」も可とする



現行のN700S(車椅子スペース2席)



実証実験(8月3日)におけるN700S試験車両のレイアウト(車椅子スペース6席)

(参考)主な新幹線車両に当てはめた場合

N700S(1,323席)のイメージ



E5・H5系、E7・W7系(500～1,000席)のイメージ



ミニ新幹線E8系(500席未満)のイメージ



※2024年春導入予定

【凡例】

□:車椅子用フリースペース

♿:車椅子スペース

6. 最後に

今 後

1. 基準改正

- 取りまとめの翌週に基準検討委員会開催
- 速やかに基準改正（2020年秋？）

2. すべての新幹線で実現

- 北海道・東北、北陸、東海道・山陽、九州、秋田山形のミニ新幹線も

3. 導入には数年かかる

- 新規導入車両は新基準で
- 東海道新幹線は170編成程度
- 1編成作るのに1年かかる

感謝

1. JR各社のご尽力、ご英断に感謝！
 - ・ 現在、東海道新幹線は1日車いす100人
 - ・ 将来の利用増加を踏まえて席数確保
 - ・ ご英断に大感謝！
2. 赤羽大臣、国交省の尽力に感謝！
 - ・ 赤羽大臣の強力なリーダーシップ
 - ・ 鉄道局のみなさまの素晴らしいご尽力
 - ・ 日本に生まれてよかった！

素晴らしい未来がやってくる！
Nothing about us, without us!

